



AT-LP3XBT

ワイヤレスターンテーブル

取扱説明書

はじめに

本製品は、販売国でのみ使用できます。本製品の電圧、ACアダプターのプラグがお住まいの国に適合していることをご確認ください。

安全上の注意

本製品は安全性に十分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために次の内容を必ずお守りください。

 警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
 注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本製品について

 警告	● 心臓ペースメーカーの装着部位から15cm以内の位置では使用しない ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。 ● 本製品を医療機器の近くで使用しない 電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。医療機関の屋内では使用しないでください。 ● 自動ドアや火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない 電波が影響をおよぼし、誤動作による事故の原因となる恐れがあります。 ● 異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない 異常に気付いたらすぐに使用を中止して、ACアダプターから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。 ● 火気に近づけない／火の付いたキャンドルなどを上に置かない 火災の原因になります。 ● 分解や改造はしない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 ● 強い衝撃を与えない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 ● 濡れた手で触れない 感電によるけがの恐れがあります。 ● 水をかけない／水滴や水しぶきのかかる場所に置かない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 ● 本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 ● じゅうたんや布などで覆わない 過熱による火災など事故の原因になります。 ● 同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない 事故や火災の原因になります。
 注意	● 不安定な場所に置かない 本製品の落下などにより、けがや故障の原因になります。 ● 換気の良い場所に置く 本製品を換気の悪い場所に置くと、熱がこもり、火災など事故の原因になります。ラックなどに入れるときは、放熱をよくするために本製品の周りに隙間を空けてください。 ● 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。 また、故障、不具合の原因になります。

- 本製品の上に物（花瓶・植木鉢・水の入ったコップ・金属など）を置かない
万一、倒れた場合、感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活保護剤など薬品は使用しない
変形、故障の原因になります。

ACアダプターについて

⚠ 警告

- 表示している電源電圧以外で使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
- 本製品以外には使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
- 異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない
過熱による火災など事故の原因になります。
- コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む
過熱による火災など事故の原因になります。
- コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因になります。
- コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因になります。
- 分解や改造はしない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電によるけがの恐れがあります。
- 布などで覆わない
過熱による火災など事故の原因になります。
- プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
過熱による火災など事故の原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない
変形、故障の原因になります。

⚠ 注意

- 長時間使用しないときは、コンセントから抜く
省エネルギーにご配慮ください。
- 足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因になります。
- 通電中のACアダプターに長時間触れない
低温やけどの原因になることがあります。

使用上の注意

ターンテーブル本体について

- 温度や湿度の高い場所、ほこりの多い場所、大きな振動がある場所には本製品を設置したり使用しないでください。
- 本製品は、傾きのない水平な場所に置いてください。
- ダストカバーを閉じる際は、完全に閉じてください。
- Bluetooth機器を接続してご使用の際は、Bluetooth機器の取扱説明書も必ずお読みください。

カートリッジについて

- 本製品を使用しないときは、付属のプロテクターをカートリッジに取り付けてください。
- カートリッジの針に指で触れないでください。
- カートリッジの針をプラッター、フェルトマットやレコードの縁部にぶつけないでください。

Bluetooth製品について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか第二世代小電力データ通信システム、移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1.この機器を使用する前に、近くで第二世代小電力データ通信システム、移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

2.万一、この機器から別の移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品の電源をお切りください。そのうえで、当社お客様相談窓口にご連絡頂き、混信回避のための処置についてお問い合わせください。

3.その他、この機器から第二世代小電力データ通信システム、移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合やご不明な点がございましたら当社お客様相談窓口までお問い合わせください。

- この無線機器は2.4GHz帯を使用します。
- 変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10mです。
- 本製品は日本の電波法の技術基準に適合しています。本製品を総務省の許可なしに改造して使用することはできません。これに違反すると法律により罰せられます。

2.4FH1

ほかの機器との同時使用

Bluetooth搭載機器・無線LANを使用する機器・電子レンジなど、本製品と同一周波数帯（2.4GHz）の電波を使用する機器の影響によって音声途切れなど電波干渉による障害が発生することがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性もあるため、次の点に注意してください。

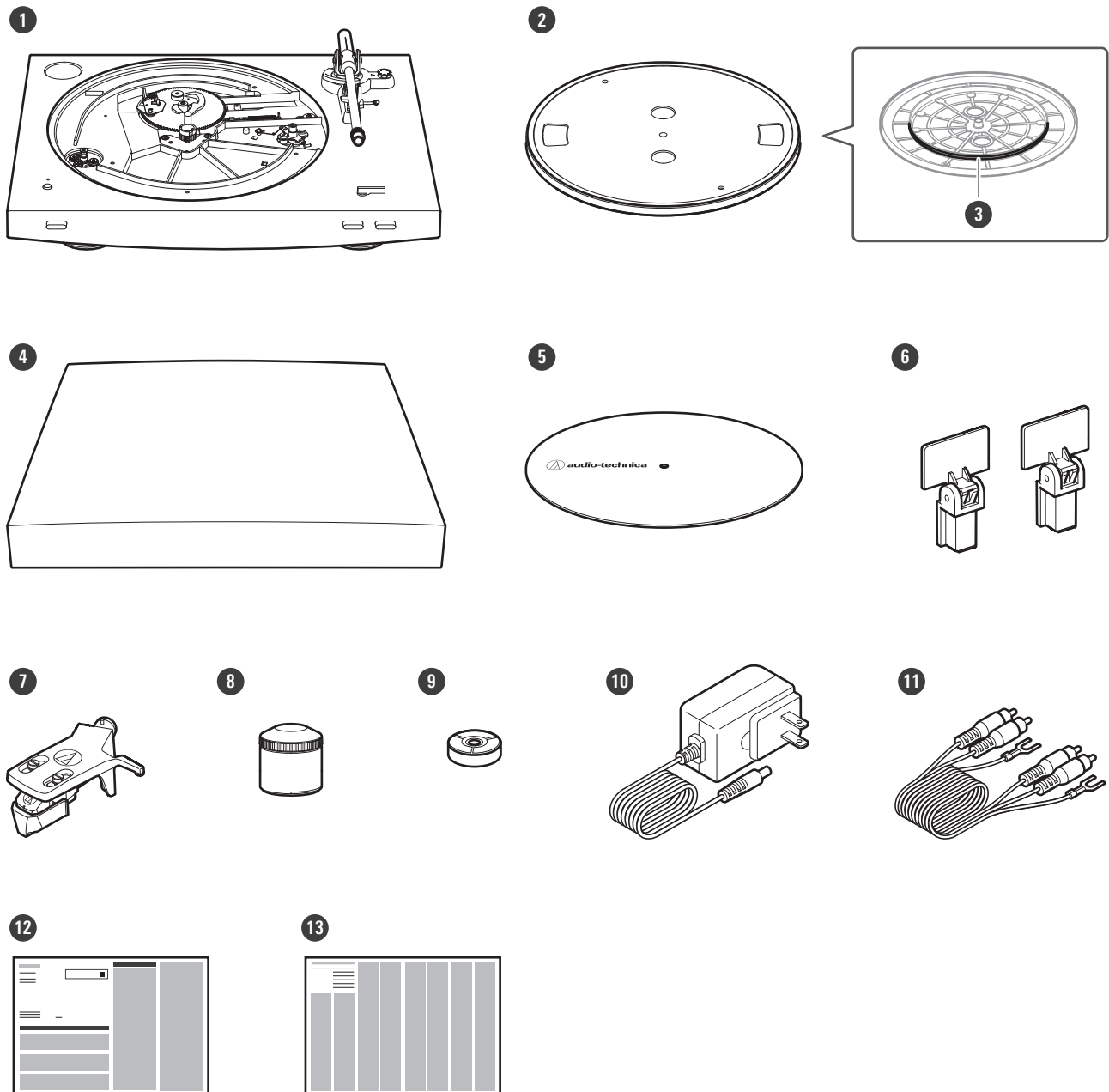
- 本製品と同一周波数帯（2.4GHz）の電波を使用する機器を離して設置する。
- 病院内では使用しない。

使用上の注意

本製品と接続する機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。Bluetooth標準規格に適合していても、特性や仕様によっては、本製品と接続できない場合や、操作方法や動作が異なる場合があります。

同梱品の確認

- 本製品をご使用になる前に、同梱品がすべてそろっていることを確認してください。
- 万一、同梱品に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店または当社窓口までご連絡ください。
- ご購入後、保管、移動、輸送する場合に備え、すべての梱包材を保管しておくことをおすすめします。



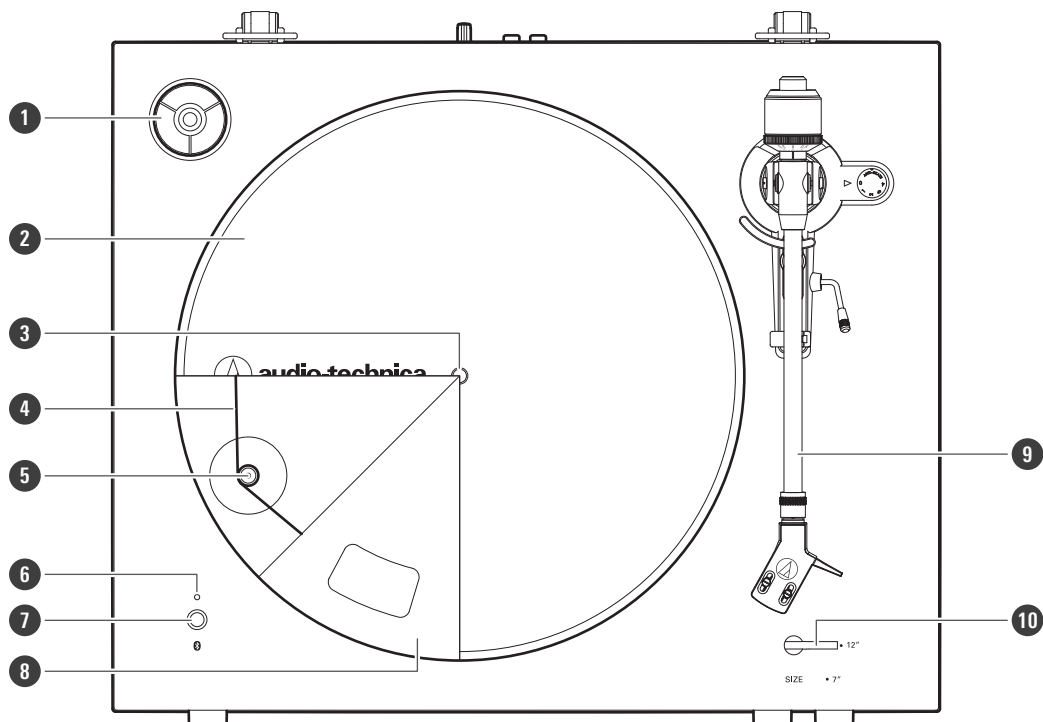
- ① ターンテーブル本体
- ② ブラッター
- ③ ドライブベルト
- ④ ダストカバー
- ⑤ フェルトマット
- ⑥ ダストカバーヒンジ

同梱品の確認

- ⑦ VM型ステレオカートリッジ (AT-VM95C) 付きヘッドシェル (AT-HS3 BK)
- ⑧ カウンターウェイト
- ⑨ EPアダプター
- ⑩ ACアダプター
- ⑪ オーディオケーブル (約1.0m)
- ⑫ クイックスタートガイド
- ⑬ 取扱注意ガイド

各部の名称と機能

天面



① EPアダプター／専用スペース

EP盤を再生する際、スピンドルに差し込みます。

② フェルトマット

③ スピンドル

④ ドライブベルト

⑤ モータープーリー（金色）

⑥ BluetoothインジケータLED

Bluetoothの接続状態を点滅・点灯で表示します。

⑦ Bluetoothコネクトボタン

本製品とBluetooth機器を接続する際に使用します。

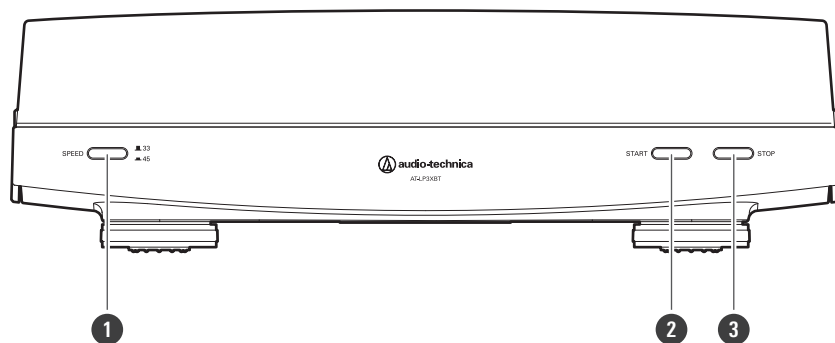
⑧ プラッター

⑨ トーンアーム

⑩ サイズセレクター

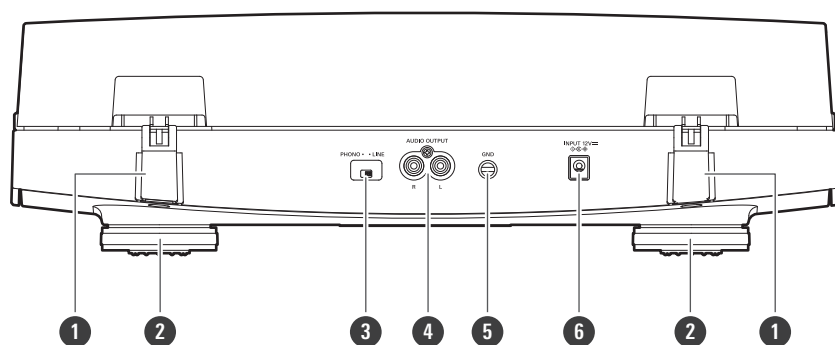
レコードの大きさによって、30cm（12"）／17cm（7"）に切り換えます。

前面



- 1 回転数セクター**
プлатターの回転数（33-1/3回転/分または45回転/分）の選択をします。
- 2 STARTボタン**
プлатターが回転し、トーンアームが移動します。
- 3 STOPボタン**
トーンアームが元の位置に戻り、プлатターが停止します。

背面



- 1 ヒンジホルダー**
ダストカバーのヒンジを取り付けます。
- 2 脚部**
本製品の水平調整をします。
- 3 PHONO/LINE切換スイッチ**
PHONO入力端子のあるアンプと接続する場合、PHONO側に設定します。アンプのAUX端子などに接続する場合は、LINE側に設定します。
- 4 ステレオ出力端子**
オーディオケーブルを接続します。アンプのPHONO入力端子またはLINE入力端子に接続してください。赤色端子が右チャンネル、白色端子が左チャンネルです。

各部の名称と機能

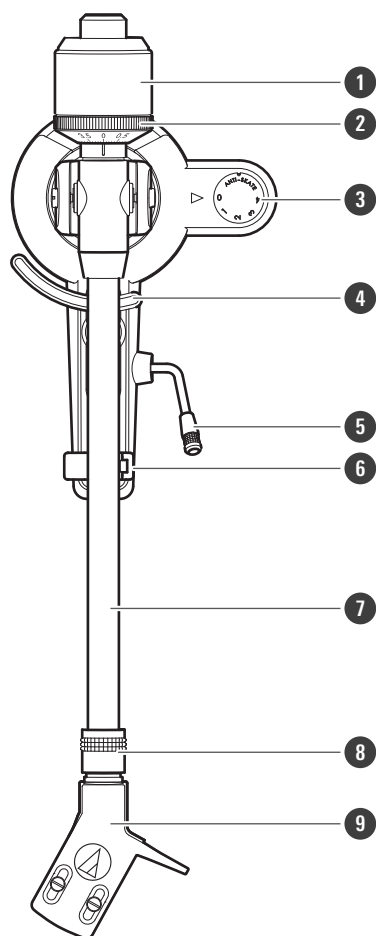
⑤ グランド（アース）端子

アンプのグランド（アース）端子とこの端子を、オーディオケーブルのアース線で接続します。

⑥ 電源入力端子

ACアダプターを接続します。

トーンアーム



① カウンターウェイト

トーンアームのバランスを取り、適切な針圧に調整します。

② 針圧調整リング

針圧を調整する際に使用します。

③ アンチスケーティング調整ダイヤル

レコードの再生中、針先が内側へ引っ張られる力が発生します。アンチスケーティングの値を針圧値と同じに設定することで、その力に抵抗します。

④ アームリフター

トーンアームをレコード盤面から上下させます。

各部の名称と機能

⑤ リフターレバー

アームリフターを操作します。

⑥ アームレスト

⑦ トーンアーム

⑧ ロックナット

リング部を反時計方向（左）に回すと、ヘッドシェルが固定されます。ヘッドシェルを取り外すには、リング部を右に回転させます。

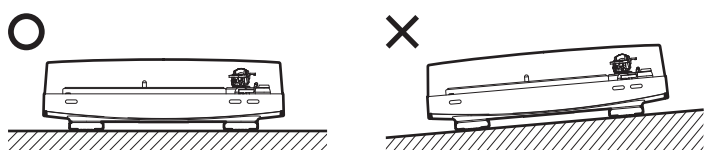
⑨ ヘッドシェルとカートリッジ

ヘッドシェルに、カートリッジが付いています。

使用前の準備

設置する

- 本製品を設置するときは、水平な場所に設置してください。
- 音圧や振動の影響を避けるため、スピーカーなどから離して設置してください。
- ラジオなどを本製品に近づけると、ラジオに雑音が入る場合があります。できるだけ本製品から離してください。
- 本製品の近くに強い電波を発生させる機器（携帯電話など）があると、ノイズが発生する場合があります。

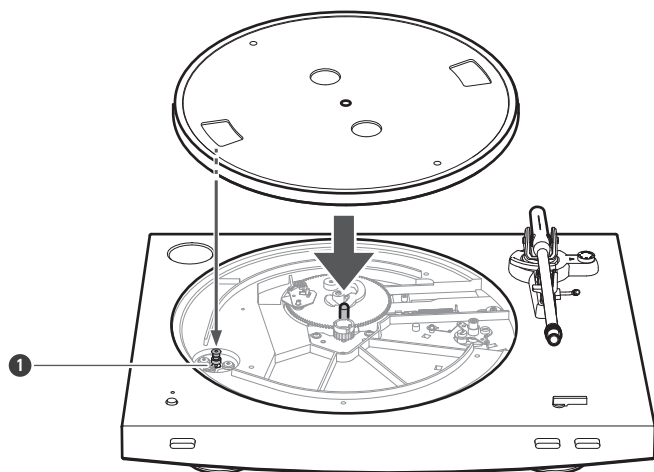


プラッターとフェルトマットを取り付ける

本製品は、初めてご使用になる前に組み立て作業が必要です。組み立てが終わるまではACアダプターを接続しないでください。

1 プラッターをスピンドルに取り付けます。

- スピンドルの破損を防ぐため、プラッターを取り付けるときは、プラッターの穴とスピンドルの位置を合わせてゆっくりと取り付けてください。
- 開口部とモータープーリー（金色）の位置を合わせてください（図参照）。
- プラッターがスピンドルに確実に装着されたことを確認します。

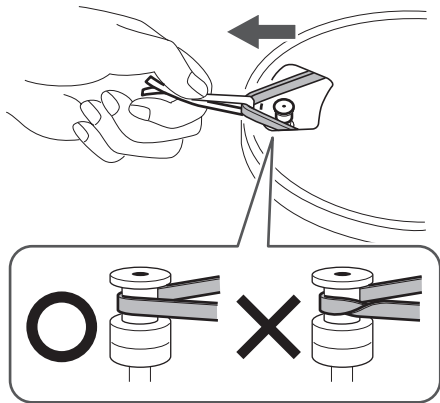


① モータープーリー（金色）

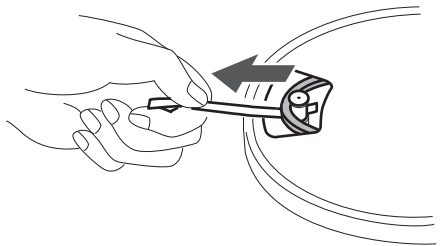
2 モータープーリー（金色）にドライブベルトを取り付けます。

使用前の準備

- 開口部をモータープーリー（金色）に合わせ、あらかじめベルトに取り付けてある、赤いリボンテープの両端を引っ張りながら、図のようにモータープーリー（金色）にベルトをかけます。その際、ベルトがねじれないように注意してください。

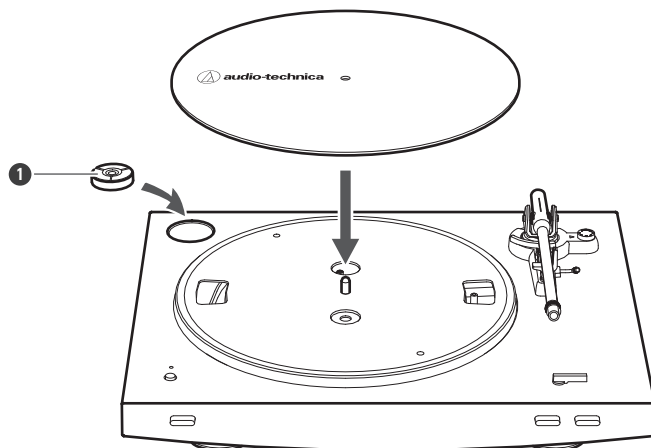


3 ベルトからリボンテープを引き抜きます。



4 フェルトマットをプラッターの上に取り付けます。

- 取り付けたあと、EPアダプターを左上の専用スペースに設置してください。

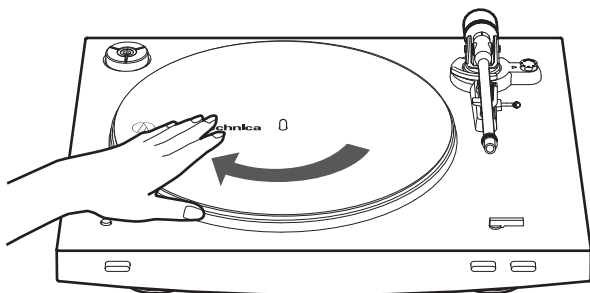


① EPアダプター

プلاتターを回転させる

1 手でプلاتターを10回転させます。

- リフターレバーでトーンアームを上げます。手でターンテーブルをゆっくり矢印の方向に10回転させてください。
- トーンアームが動くことがありますのでご注意ください。この作業は、ベルトの歪みをなくし、プلاتター中央に滑らかにかかるようにするためです。

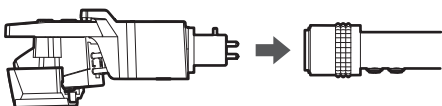


トーンアームをセットアップする

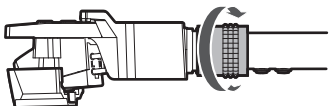
1 工場出荷時の、トーンアーム固定用結束バンドを取り外します。

2 ヘッドシェルをトーンアームに差し込みます。

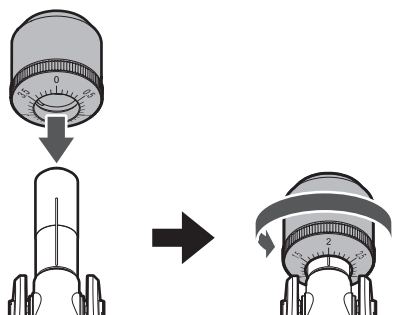
- 針を傷めたりカートリッジの配線を切らないように、ヘッドシェルの左右の縁部を持ってください。



3 ヘッドシェルを差し込んだまま、ロックナットを反時計方向（左）に回します。



4 トーンアームの後部にカウンターウェイトを取り付けて反時計方向（左）にゆっくり回します。



トーンアームの水平バランスと針圧の調整について

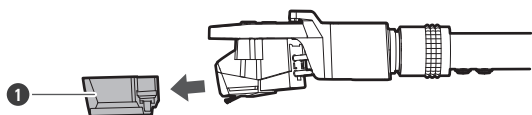
カートリッジがレコードの溝から正確に音を拾うために、カートリッジの仕様に合わせて、トーンアームの水平バランスと針圧を調整する必要があります。

トーンアームの水平バランスと針圧調整が不十分だと、カートリッジの針やレコードを傷める恐れがあります。

- 水平バランスと針圧の調整を行っているとき、フェルトマットやレコードの上でカートリッジの針を引きずらないでください。針が破損する恐れがあります。

水平バランスを調整する

- 1 カートリッジのプロテクターを取り外します。



① プロテクター

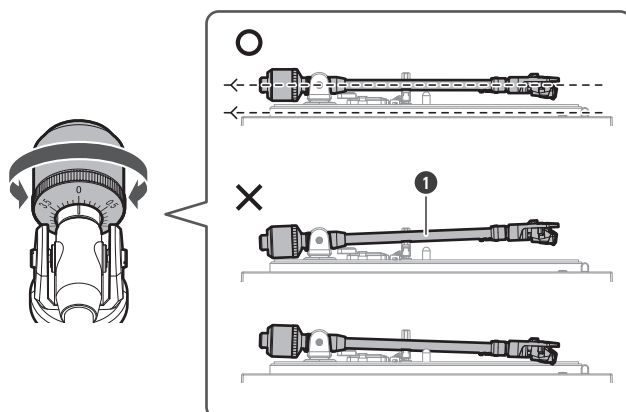
- 2 リフターレバーを上げて、フェルトマットの上にトーンアームを移動します。ヘッドシェルを持ったまま、リフターレバーを下げます。

- 針先がフェルトマットに触れないようにしてください。

- 3 ヘッドシェルを軽く持ったままカウンターウェイトを回してトーンアームの水平バランスを調整します。

- 手を離れたときにトーンアームが水平になるように調整してください。

使用前の準備



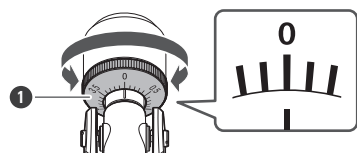
① トーンアーム

4 トーンアームをアームレストに戻します。

針圧を調整する

1 カウンターウェイトが動かないように押さえながら、針圧調整リングの「0」の位置がトーンアーム後部のセンターラインと重なるように回します。

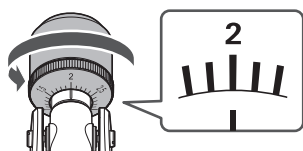
- 針圧調整リングを回しても針圧は調整されません。



① 針圧調整リング

2 カウンターウェイトと針圧調整リングを反時計方向（左）に回して、ご使用のカートリッジの推奨針圧値に合わせます。

- 推奨針圧値については、カートリッジメーカーの仕様を参照してください。
- 本製品付属のカートリッジの針圧値は2.0gです。

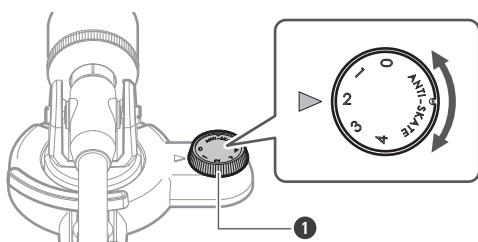


アンチスケーティングを調整する

レコードの再生中、針先が内側へ引っ張られる力が発生します。アンチスケーティングの値を針圧値と同じに設定することで、その力に抵抗します。

1 アンチスケーティング調整ダイヤルを針圧値と同じ値に調整します。

- 本製品付属のカートリッジの針圧値は2.0gです。

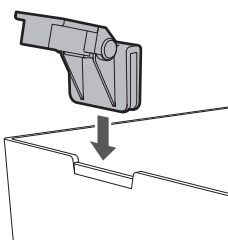


① アンチスケーティング調整ダイヤル

ダストカバーを取り付ける

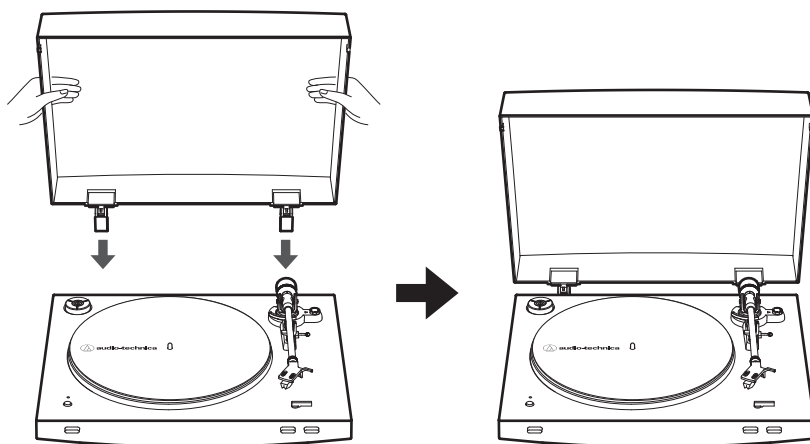
ダストカバーは本製品を使用しない際に、本製品の繊細な部分を保護するためのものです。

1 ダストカバーのくぼみにダストカバーヒンジを取り付けます。



2 ダストカバーのヒンジ部分を本体背面の2つのヒンジホルダーに差し込みます。

使用前の準備



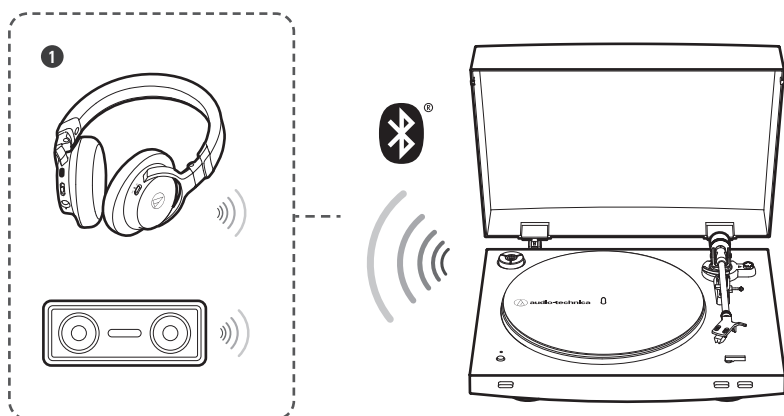
- ダストカバーを取り外す際は、本体のヒンジホルダーからダストカバーをゆっくり抜きます。
- レコードを再生する際はダストカバーを開けておく、または取り外してください。

ワイヤレス／有線接続について

本製品ではお使いの環境に合わせてBluetoothでワイヤレス接続、またはオーディオケーブルを使用してアクティブスピーカーなどと有線接続することができます。

ワイヤレスで接続する

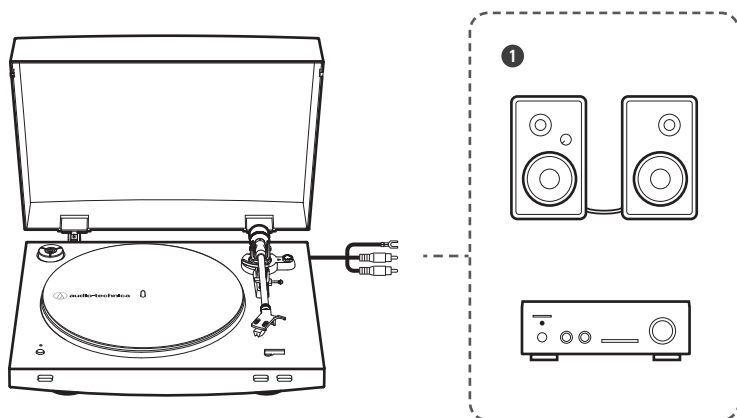
Bluetoothを使用してワイヤレスで接続する場合は、「ワイヤレスで使用する」(p.20)をお読みください。



① ワイヤレスヘッドホンまたはワイヤレススピーカー

有線で接続する

オーディオケーブルを使用して有線で接続する場合は、「有線で使用する」(p.27)をお読みください。



① アクティブスピーカーまたはアンプ



- 接続するスピーカーなどに音量調整がない場合、音量調整はできません。

ワイヤレスで使用する

本製品は、Bluetooth接続に対応しています。Bluetooth対応のヘッドホンやスピーカーなど（以下Bluetooth機器と記載）と接続することができます。

ペアリングについて

本製品とBluetooth機器を接続する場合は、本製品とペアリング（登録）する必要があります。一度ペアリングをすれば、再びペアリングする必要はありません。

ただし、次の場合は再度ペアリングが必要です。

- Bluetooth機器の接続履歴から削除された場合
- 本製品を修理に出した場合
- 9台以上のペアリングをした場合（本製品は合計8台までペアリングすることができます。8台分をペアリングしたあとに、新たな機器をペアリングすると、8台の中で接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。）

ペアリングのしかた

- Bluetooth機器の取扱説明書も併せてお読みください。
- Bluetooth機器を本製品から1m以内に置いてペアリングを行ってください。
- 接続するBluetooth機器の動作は保証できませんので、あらかじめご了承ください。

1 ACアダプターをコンセントに差し込みます。

- 安全のため、リフターレバーを持ち上げて、トーンアームをあげておいてください。
- 本製品に電源スイッチはありません。使用しないときも待機電流が流れていますので、長時間ご使用にならないときは、コンセントからACアダプターを抜いてください。
- カートリッジのプロテクターは取り外さずに、ACアダプターをコンセントに差し込みます。もしプラッターが回転した場合は、トーンアームに触れずにSTOPボタンを押し、トーンアームが元の位置に戻るまでお待ちください。
- 本製品はACアダプターをコンセントに差したあと、すぐにレコードを再生しようとすると、再生音が乱れる場合があります。ACアダプターをコンセントに差したあと、しばらくしてから（約30秒後）レコードを再生してください。

2 PHONO/LINE切換スイッチをLINE側に設定します。

3 お使いのBluetooth機器（Bluetooth対応ヘッドホンやスピーカーなど）をペアリングモードにします。

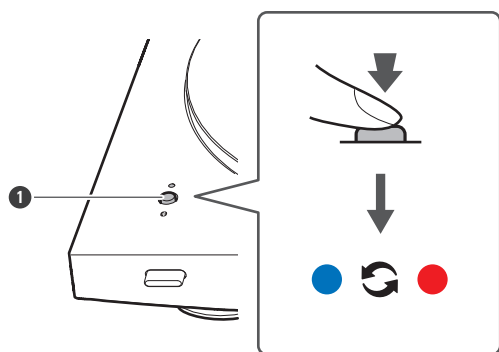
ワイヤレスで使用する

🔌 ON



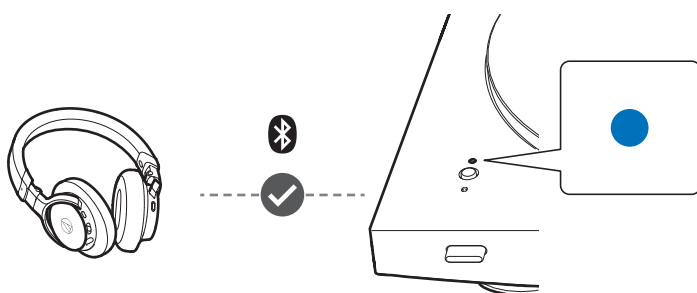
4 Bluetoothコネクトボタンを長押し（約2秒）します。

- BluetoothインジケータLEDが赤と青に点滅を始めます。



❶ Bluetoothコネクトボタン

5 ペアリングが完了すると、BluetoothインジケータLEDが青色に点灯します。



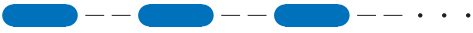
- 本製品のペアリングモードは、一定時間後（約30秒）に自動的に終了します。正しくペアリングが完了しなかった場合は、同様の方法でペアリングをし直してください。

BluetoothインジケータLED表示について

ペアリング

動作状態	表示パターン
機器検索中	 青色・赤色点滅

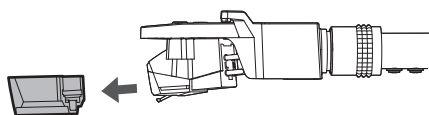
接続

動作状態	表示パターン
接続待ち	 青色点滅
接続中	 青色点灯
切断中	 赤色点灯

再生の前に

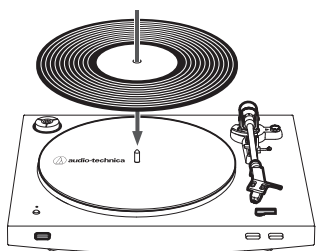
1 カートリッジのプロテクターを取り外します。

- まっすぐ手前に引き抜いてください。



2 レコードを、中心の穴がスピンドルに合うようにフェルトマットの上に乘せます。

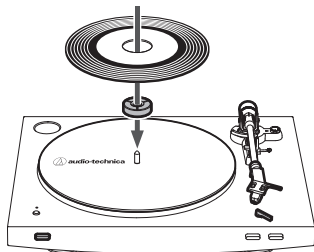
33-1/3回転時



ワイヤレスで使用する

45回転時

EPレコードの場合は、EPアダプターを取り付けてください。



3 Bluetooth機器の電源を入れます。

- 本製品とBluetooth機器が正しく接続されると、本製品のBluetoothインジケータLEDが青色に点灯します。
- BluetoothインジケータLEDが赤色に点灯している場合、Bluetoothコネクトボタンを押すと再度Bluetooth機器と接続します。



- Bluetooth接続時、有線接続しているアンプやアクティブスピーカーなどの電源を入れたままにしておくと、両方から音が再生されます。再生したい機器の電源のみを入れてください。

オート再生のしかた

ワイヤレスヘッドホンやワイヤレススピーカーなどの音量を充分小さくしておいてください。

1 サイズセレクターでサイズを選択します。

- 直径30cmのLPレコードの場合は「12」、直径17cmのEPレコードの場合は「7」を選択してください。



SIZE • 7"

2 回転数セレクターを押して回転数を選択します。

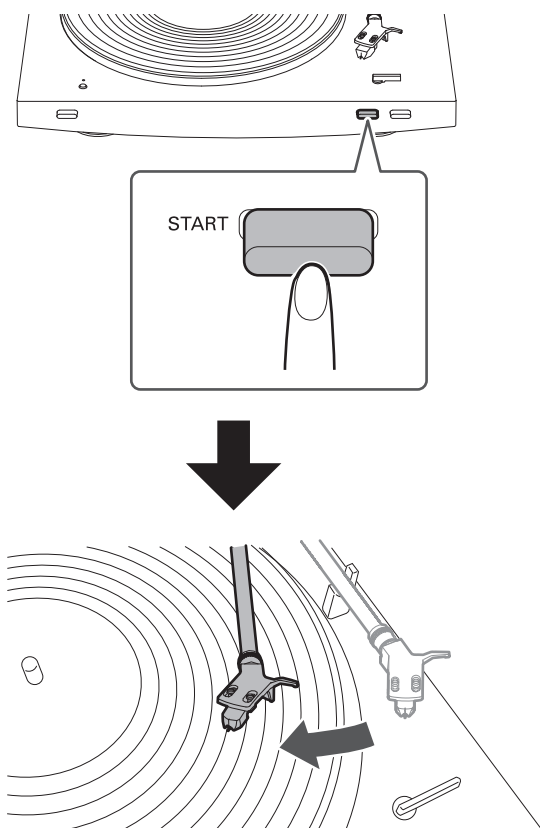
- 33-1/3回転レコードの場合は「33」、45回転レコードの場合は「45」を選択してください。



3 STARTボタンを押します。

- 再生中は本製品に衝撃などを与えないでください。
- 再生中にサイズセレクターでサイズを変更しないでください。故障の原因になります。

ワイヤレスで使用する



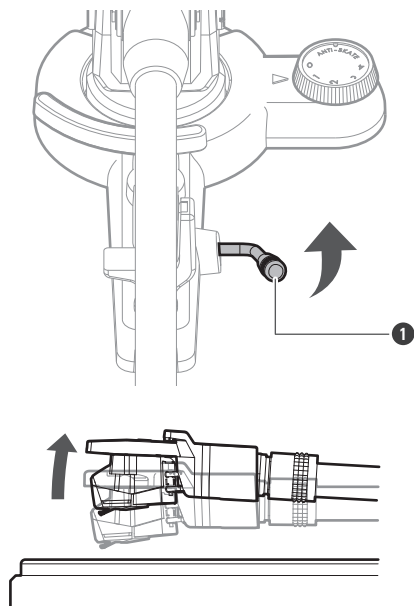
≫ 再生が開始されます。

マニュアル再生のしかた

ワイヤレスヘッドホンやワイヤレススピーカーなどの音量を充分小さくしておいてください。

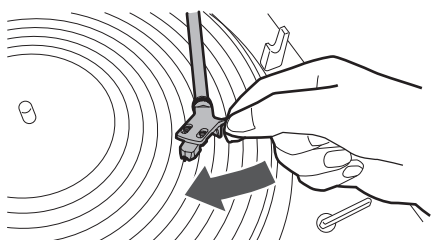
- 1 リフターレバーを持ち上げ、トーンアームを上げます。

ワイヤレスで使用する



① リフターレバー

2 レコードの聴きたい位置（溝）の上にトーンアームを移動させます。



3 リフターレバーを下げ、トーンアームを降ろします。

- 上記の手順1～2を飛ばし、ヘッドシェルを指で持ち上げて、トーンアームをレコードの聴きたい位置に移動させ、降ろして再生を開始することもできます。
- 再生中は本製品に衝撃などを与えないでください。
- 再生中にサイズセクターでサイズを変更しないでください。故障の原因になります。

≫ トーンアームがレコード盤面までゆっくり降り、再生が開始されます。

再生を中断する

- 1 ワイヤレスヘッドホンやワイヤレススピーカーなどの音量を充分小さくしたあと、リフターレバーでトーンアームを上げます。

停止する

レコードが最後まで再生されると、トーンアームは自動的にアームレストに戻ります。レコードの再生中に、途中で停止する場合は次のとおりです。

1 ワイヤレスヘッドホンやワイヤレススピーカーなどの音量を充分小さくします。

2 STOPボタンを押します。

- 再生が終了すると、トーンアームは自動的にアームレストに戻ります。

3 プラッターが完全に停止したあと、レコードを取り外します。

4 プロテクターを取り付けます。



- プラッター回転中にトーンアームを中心に近づけると、トーンアームはアームレストに戻ろうとしますが、これを無理に止めないでください。故障の原因になります。トーンアームがアームレストに戻らないときは、STOPボタンを押すと自動的に戻ります。
- フェルトマットが汚れているとレコードに傷が付きやすくなりますので、定期的にフェルトマットを取り外して、ほこりなどを払ってください。
- 使用後は、レコードの傷付きや反りを防止するため、レコードを取り外してください。
- ディスクスタビライザーは使用しないでください。
- 付属品以外のプラッターは使用しないでください。
- 本製品はDJ用ではありません。再生中のレコードやプラッターには触れないでください。

有線で使用する

PHONO／LINE切換スイッチの設定に合わせて、ご使用の接続機器（アンプ、レシーバー、アクティブスピーカー、サウンドカードまたはその他の機器）の入力端子に、オーディオケーブルを接続します。

PHONO／LINE切換スイッチの設定

- 本製品は、フォノイコライザー機能を内蔵しています。フォノアンプまたはフォノアンプ内蔵の接続機器をお持ちでない場合でも、アクティブスピーカーなどをつないで本製品を使用できます。
- PHONO／LINE切換スイッチを使用して、次のように出力を設定してください。



- Bluetooth接続時は、PHONO／LINE切換スイッチをLINE側に設定してください。

PHONO入力がある機器

PHONO／LINE切換スイッチの位置	オーディオケーブルの接続先
PHONO	接続機器のPHONO入力端子とグラウンド（アース）端子

PHONO入力がない機器

PHONO／LINE切換スイッチの位置	オーディオケーブルの接続先
LINE	接続機器のAUX端子またはLINE入力端子

パソコンのサウンドカード

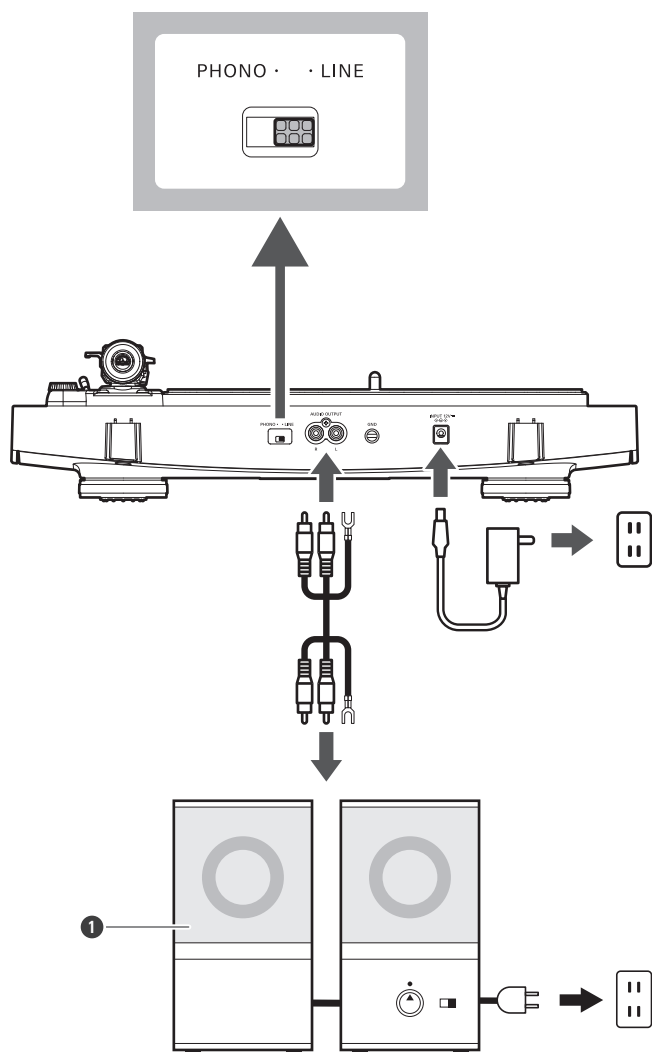
PHONO／LINE切換スイッチの位置	オーディオケーブルの接続先
LINE	サウンドカードのLINE入力端子 ^[1]

[1] オーディオケーブルをパソコンのサウンドカードのLINE入力端子に接続するには、オーディオアダプター（別売）が必要な場合があります。

アクティブ（アンプ内蔵型）スピーカーとの接続

- 本製品とスピーカーを直接接続する場合は、アクティブスピーカーを使用します。
- アクティブスピーカーによっては、接続する際に変換ケーブルなどが必要になる場合があります。

有線で使用する

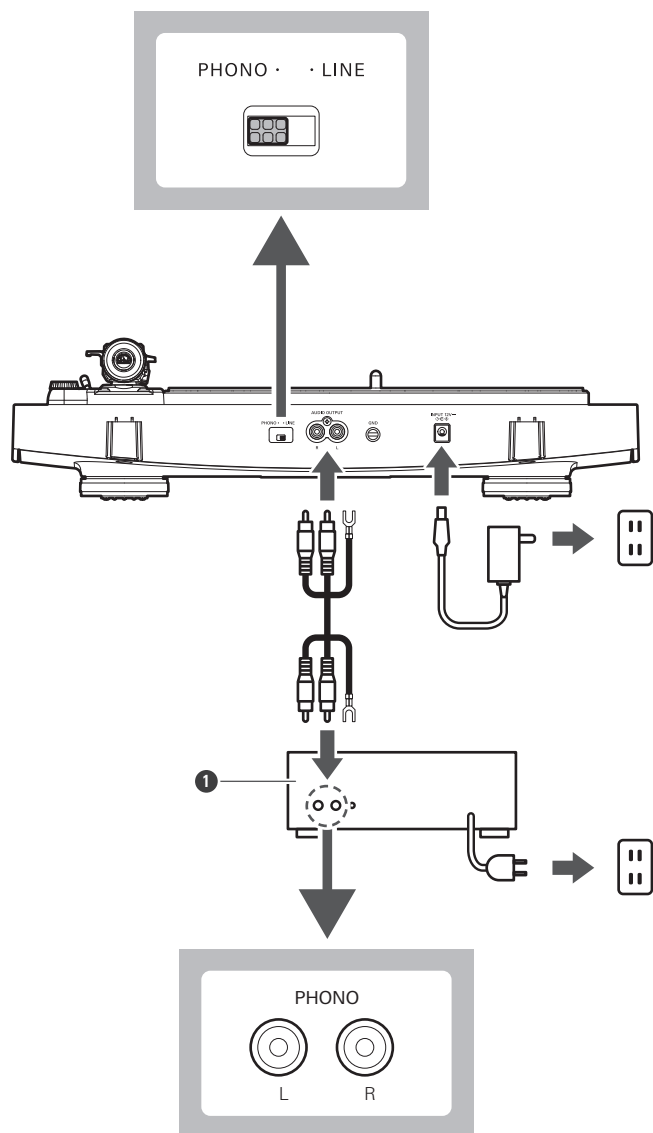


① アクティブスピーカー

接続機器（アンプなど）との接続

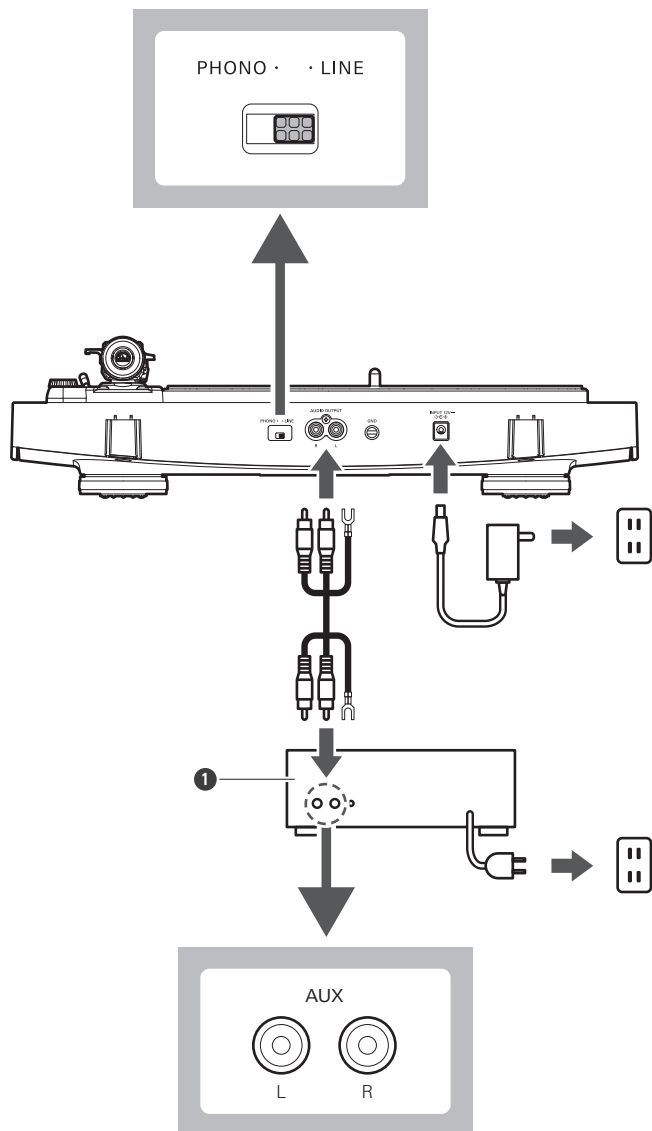
オーディオケーブルの赤色端子が右（R）チャンネル、白色端子が左（L）チャンネルです。

PHONO入力がある場合



① 接続機器（アンプなど）

PHONO入力がない場合



① 接続機器（アンプなど）



- 使用の接続機器によっては、PHONO入力端子の近くにグラウンド（アース）端子が搭載されている場合があります。その場合は、オーディオケーブルのアース線で接続します。レコード再生時のノイズ（ブーンという低い雑音のハム音）が少なくなることがあります。

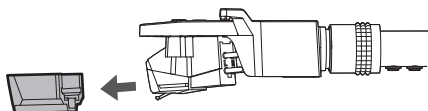
再生の前に

1 ACアダプターをコンセントに差し込みます。

- 安全のため、リフターレバーを持ち上げて、トーンアームをあげておいてください。
- 本製品に電源スイッチはありません。使用しないときも待機電流が流れていますので、長時間ご使用にならないときは、コンセントからACアダプターを抜いてください。
- カートリッジのプロテクターは取り外さずに、ACアダプターをコンセントに差し込みます。もしプлатターが回転した場合は、トーンアームに触れずにSTOPボタンを押し、トーンアームが元の位置に戻るまでお待ちください。
- 本製品はACアダプターをコンセントに差したあと、すぐにレコードを再生しようとすると、再生音が乱れる場合があります。ACアダプターをコンセントに差したあと、しばらくしてから（約30秒後）レコードを再生してください。

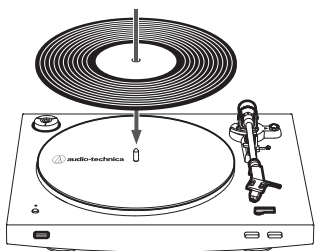
2 カートリッジのプロテクターを取り外します。

- まっすぐ手前に引き抜いてください。



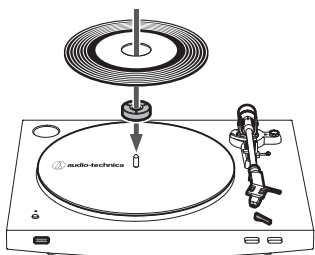
3 レコードを、中心の穴がスピンドルに合うようにフェルトマットの上に乗せます。

33-1/3回転時



45回転時

EPレコードの場合は、EPアダプターを取り付けてください。



オート再生のしかた

アンプやアクティブスピーカーなどの音量を充分小さくしておいてください。

1 サイズセレクターでサイズを選択します。

- 直径30cmのLPレコードの場合は「12"」、直径17cmのEPレコードの場合は「7"」を選択してください。



SIZE • 7"

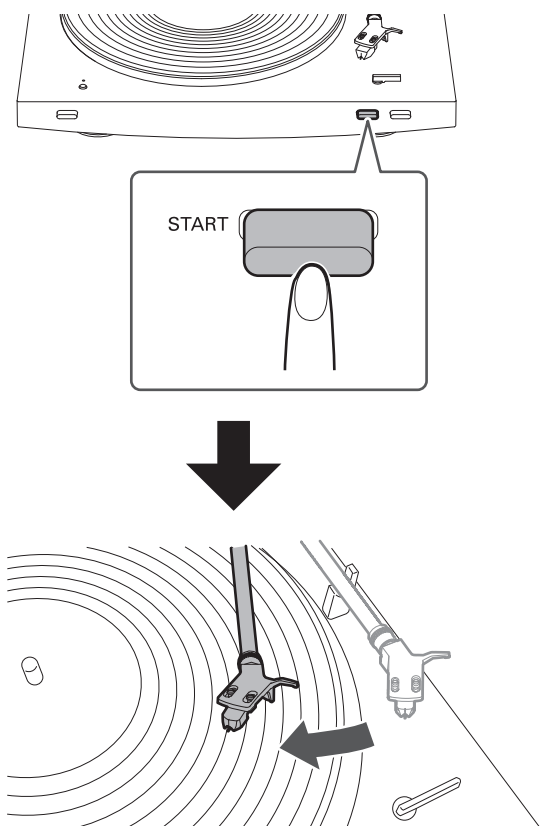
2 回転数セレクターを押して回転数を選択します。

- 33-1/3回転レコードの場合は「33」、45回転レコードの場合は「45」を選択してください。



3 STARTボタンを押します。

- 再生中は本製品に衝撃などを与えないでください。
- 再生中にサイズセレクターでサイズを変更しないでください。故障の原因になります。

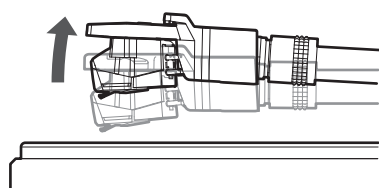
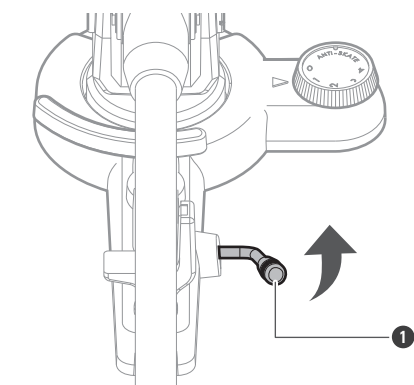


≫ 再生が開始されます。

マニュアル再生のしかた

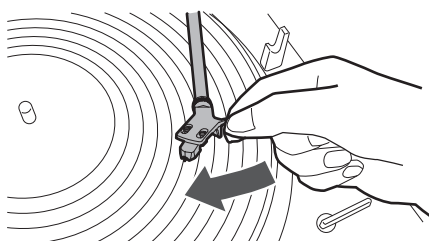
アンプやアクティブスピーカーなどの音量を充分小さくしておいてください。

1 リフターレバーを持ち上げ、トーンアームを上げます。



① リフターレバー

2 レコードの聴きたい位置（溝）の上にトーンアームを移動させます。



3 リフターレバーを下げ、トーンアームを降ろします。

- 上記の手順1～2を飛ばし、ヘッドシェルを指で持ち上げて、トーンアームをレコードの聴きたい位置に移動させ、降ろして再生を開始することもできます。
- 再生中は本製品に衝撃などを与えないでください。
- 再生中にサイズセクターでサイズを変更しないでください。故障の原因になります。

≫ トーンアームがレコード盤面までゆっくり降り、再生が開始されます。

再生を中断する

- 1 アンプやアクティブスピーカーなどの音量を充分小さくしたあと、リフターレバーでトーンアームを上げます。

停止する

レコードが最後まで再生されると、トーンアームは自動的にアームレストに戻ります。レコードの再生中に、途中で停止する場合は次のとおりです。

- 1 アンプやアクティブスピーカーなどの音量を充分小さくします。
- 2 STOPボタンを押します。
 - 再生が終了すると、トーンアームは自動的にアームレストに戻ります。
- 3 プラッターが完全に停止したあと、レコードを取り外します。
- 4 プロテクターを取り付けます。



- プラッター回転中にトーンアームを中心に近づけると、トーンアームはアームレストに戻ろうとしますが、これを無理に止めないでください。故障の原因になります。トーンアームがアームレストに戻らないときは、STOPボタンを押すと自動的に戻ります。
- フェルトマットが汚れているとレコードに傷が付きやすくなりますので、定期的にフェルトマットを取り外して、ほこりなどを払ってください。
- 使用後は、レコードの傷付きや反りを防止するため、レコードを取り外してください。
- ディスクスタビライザーは使用しないでください。
- 付属品以外のプラッターは使用しないでください。
- 本製品はDJ用ではありません。再生中のレコードやプラッターには触れないでください。

お手入れ

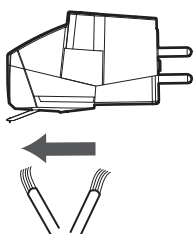
本体のお手入れ

- 汚れたときやほこりが付いたときはACアダプターを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- フェルトマットが汚れているとレコードに傷が付きやすくなりますので、定期的にフェルトマットを取り外して、ほこりなどを払ってください。
- 長い間保存するときには、ACアダプターをコンセントから抜き、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。

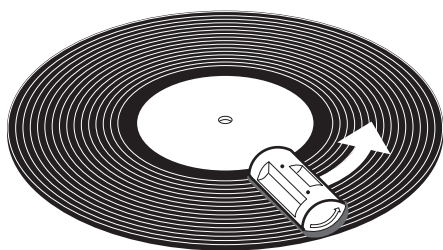
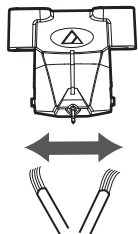
カートリッジの針先／レコードのお手入れ

- 針先にごみや汚れが付着した場合は、必要に応じてお手入れを行ってください。お手入れの際は、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
- 汚れがひどい場合は、スタイラスクリーナー（当社別売）をおすすめします。根元から針先へ向かってブラシを動かしてクリーニングしてください。
- レコードクリーナー、スタイラスクリーナー（当社別売）について詳しくは、当社ホームページ（<https://www.audio-technica.co.jp/>）をご確認ください。

○



×



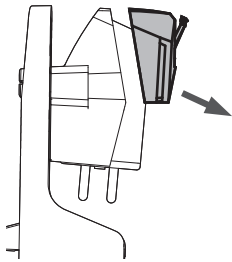
針交換のしかた

交換針の取り外しかた

- カートリッジの針先が磨耗すると音質が悪くなるばかりでなく、レコードを傷める原因になります。
- 再生時間は300時間を目安に交換してください。
- 必ず本製品のACアダプターをコンセントから抜いてください。
- 針交換を行う場合は、ヘッドシェルとカートリッジ本体をしっかりと持ちください。

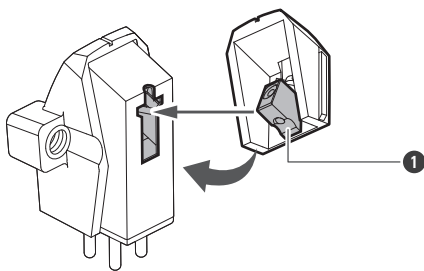
1 ヘッドシェルをトーンアームから取り外します。

2 カートリッジのプロテクターを取り外したあと、カンチレバー、針先やマグネットに触れないように交換針を矢印の方向に引っ張って、取り外します。



新しい交換針の取り付けかた

1 新しい交換針をカートリッジに取り付けます。



① 内側の突起の位置を合わせる

2 ヘッドシェルをトーンアームに取り付けます。

カートリッジ交換のしかた

- 市販のカートリッジに交換する場合、使用するカートリッジの取扱説明書を参照して交換してください。
- 新しいカートリッジに交換したあと、水平バランスや針圧、オーバーハングなどの調整を再度行う必要があります。

1 ヘッドシェルをトーンアームから取り外します。

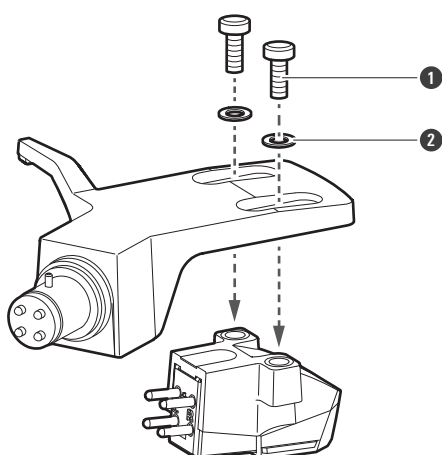
2 カートリッジから交換針を取り外します。

3 リードチップを取り外します。

- リード線が切れないように注意してください。

4 取り付けビスを市販の非磁性マイナスドライバーなどで取り外して、カートリッジをヘッドシェルから取り外します。

5 新しいカートリッジの取扱説明書を参照し、カートリッジをヘッドシェルに取り付け、リードチップを接続します。



① 取り付けビス

② プラスチックワッシャー

6 2箇所のビスを市販の非磁性マイナスドライバーなどで緩めて、オーバーハングの調整をします。

- 「オーバーハングの調整」(p.42)を参照してください。
- 調整終了後はビスを確実に締めてください。

7 トーンアームに取り付けます。

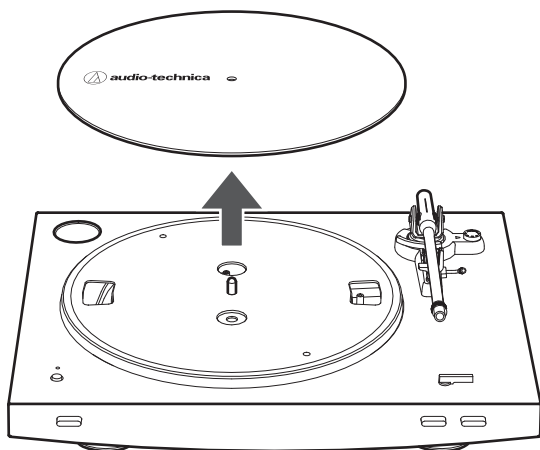
8 水平バランスや針圧の調整を行います。

- 「水平バランスを調整する」(p.15)と「針圧を調整する」(p.16)を参照して調整してください。

ベルト交換のしかた

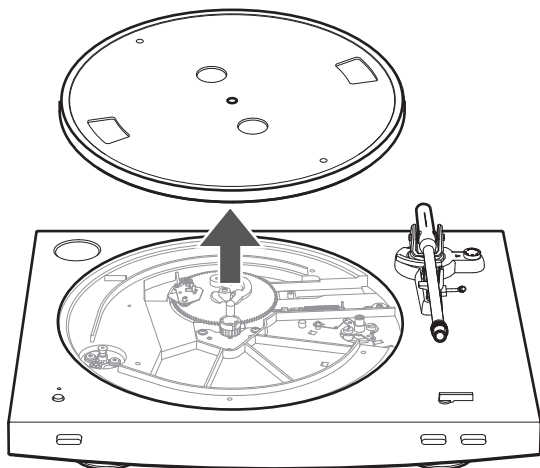
- ベルトは消耗品です。再生速度が遅くなったり、回転ムラが発生した場合は、ベルトを交換してください。1年を目安に交換することをおすすめします。
- ベルト交換を行う前に、必ず本製品のACアダプターをコンセントから抜いてください。

1 フェルトマットを取り外します。



2 ベルトをモータープーリー（金色）から取り外してからプラッターを取り外し、裏返して古いベルトを取り外します。

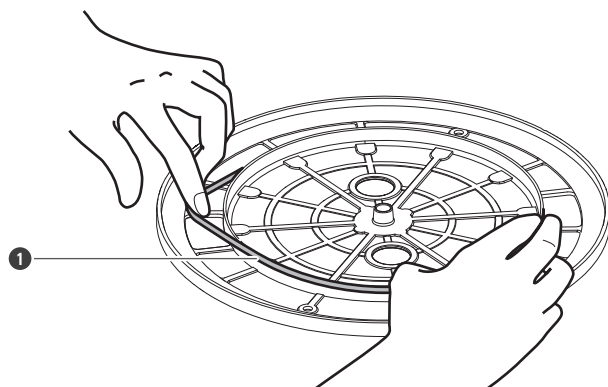
- 開口部に親指をかけ、強く引き上げてください。



3 内円部の外周に新しいベルトをかけます。

- 途中でベルトがねじれないように注意してください。

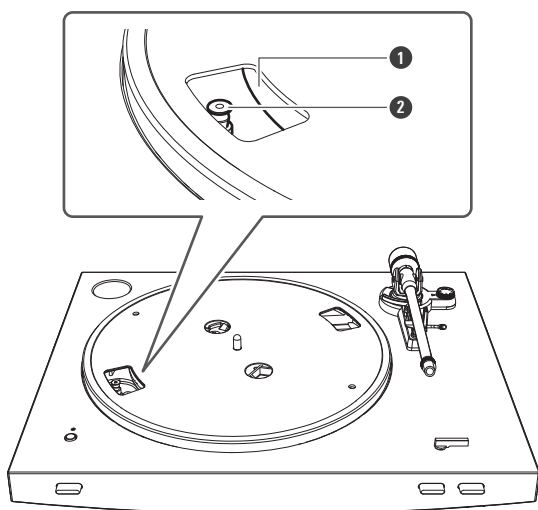
ベルト交換のしかた



① ベルト

4 プラッターを取り付けます。

- 開口部とモータープーリー（金色）の位置を合わせてください。



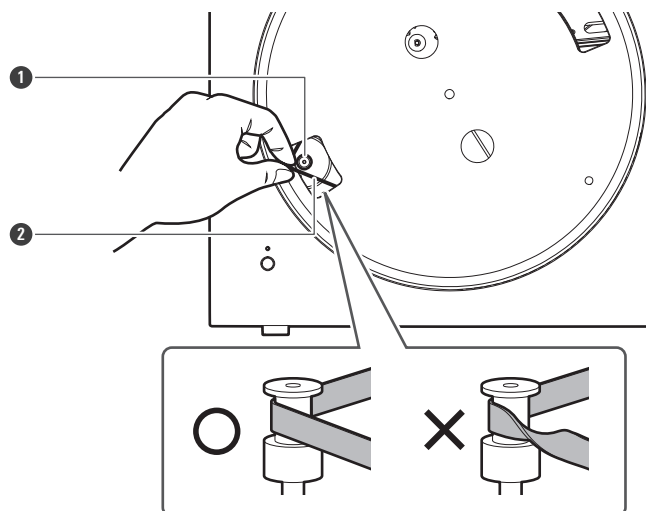
① 開口部

② モータープーリー（金色）

5 モータープーリー（金色）にベルトをかけます。

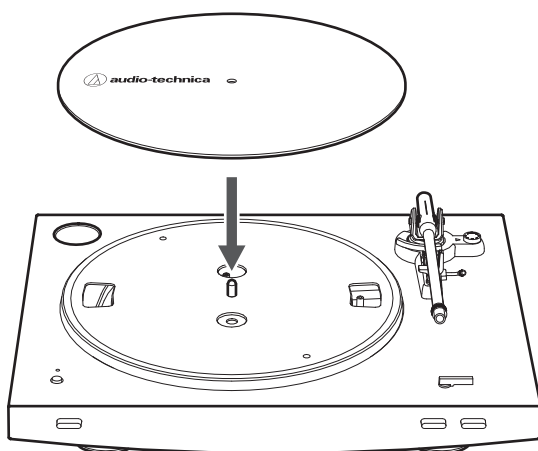
- 手順3で取り付けしたベルトをつまんで引っ張りながら、モータープーリー（金色）にかけてください。

ベルト交換のしかた



- ① モータープーリー（金色）
- ② ベルト

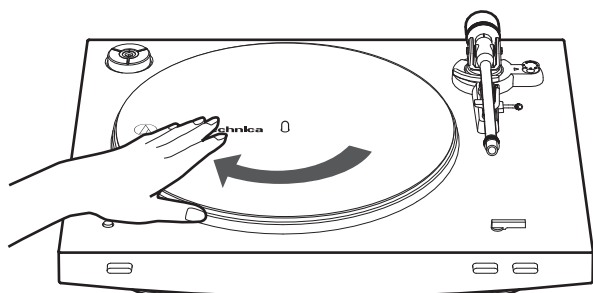
6 フェルトマットをプラッターの上に取り付けます。



7 手でプラッターを10回転させます。

- リフターレバーでトーンアームを上げます。手でターンテーブルをゆっくり矢印の方向に10回転させてください。
- トーンアームが動くことがありますのでご注意ください。この作業は、ベルトの歪みをなくし、プラッター中央に滑らかにかかるようにするためです。

ベルト交換のしかた

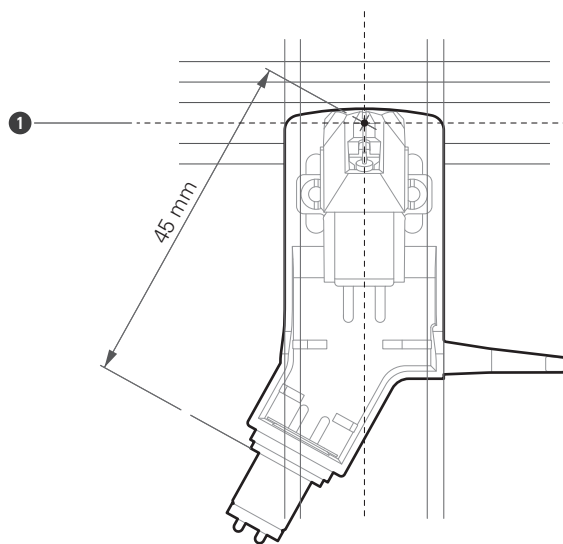


オーバーハングの調整

- 付属品以外のカートリッジやヘッドシェルを取り付ける際、カートリッジの取り付け位置を正確に決める必要があります（オーバーハングの調整）。
- PDF版の本ページをプリンターで等倍印刷してご使用ください。HTML版を印刷しても実寸ではありませんのでご注意ください。

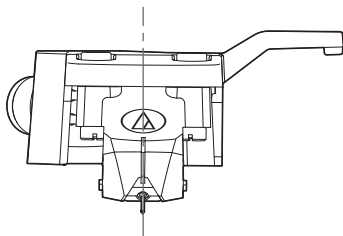
1 カートリッジをヘッドシェルに対して平行になるように取り付けます。

- 図のオーバーハング調整ガイドにカートリッジとヘッドシェルの位置を合わせて、平行になるように取り付けてください。
- 本イラストは実寸で表示されています。（PDF版のみ）。
- 図にヘッドシェルを置いて、「カートリッジの針先」のラインに新しいカートリッジの針先が合うように調整してください。



① カートリッジの針先

2 カートリッジをヘッドシェルに対して垂直になるように取り付けます。



本製品を移動するときは

ご購入時の梱包材を使用して、開梱のときと逆の方法で梱包してください。梱包材がない場合は、次の対応を行ってください。

- ACアダプターをコンセントから抜いたあと、フェルトマットとプラッターを取り外し、傷が付かないように梱包してください。プラッターを取り付けたまま本製品を移動すると、スピンドルが破損するおそれがあります。
- カウンターウェイトを取り外します。
- カートリッジのプロテクターを取り付けた状態でヘッドシェルをトーンアームから取り外し、傷が付かないように梱包してください。
- トーンアームを紐などで結んで動かないようにしてください。
- ターンテーブル本体は、柔らかい布や紙などで傷が付かないように梱包してください。

故障かな？と思ったら

② プラッターが回転しない

- ACアダプターがコンセントから外れていませんか。ACアダプターをコンセントに差し込んでください。
- ベルトがプラッターから外れていませんか。ベルトをプラッターに正しく取り付けてください。
- ベルトがモータープーリー（金色）にかけられていますか。ベルトがモータープーリー（金色）に正しくかけられているか確認してください。
- ベルトが切れていませんか。ベルトを新品に交換してください。

③ プラッターは回るが、音が出ない、または音量が小さい

- カートリッジのプロテクターを取り付けたままになっていませんか。カートリッジのプロテクターを取り外してください。
- トーンアームを上げた状態になっていませんか。トーンアームを降ろしてください。
- アンプなど接続機器の機能設定や入力を選択が間違っていないですか。接続機器の設定が適切か確認してください。
- 針が損傷していませんか。針を確認し、交換してください。
- 針がカートリッジ本体に正しく装着されていますか。カートリッジを確認し、調整してください。
- PHONO／LINE切換スイッチの設定位置が間違っていないですか。アンプの入力に合った正しい設定がされていることを確認してください。
- 音が出ない場合や音量が小さい場合は、本製品が「PHONO」側に設定され、アンプのAUX／LINE入力に接続されています。
- 音量が大きすぎる場合や歪んでいる場合は、本製品が「LINE」側に設定され、接続機器がPHONO入力に接続されています。
- 針圧が大きすぎませんか。針圧を調整してください。

④ 針とびを起こす

- 針圧が小さすぎる、または大きすぎませんか。針圧を調整してください。
- アンチスケーティングの調整が不十分ではありませんか。アンチスケーティングがカートリッジの針圧と同じ値に設定されているか確認してください。
- レコードが反っていませんか。レコードを確認してください。
- レコードに傷が付いていませんか。レコードを確認してください。
- 針が汚れていませんか。ほこりなどが多く溜まっていると、レコードの再生に影響があります。

故障かな？と思ったら

① ハウリングが生じる

- 本製品が、床、壁面、または近くのスピーカーから過度に振動を拾っていませんか。振動を小さくするか、振動の影響を受けない場所に本製品を置いてください。
- 本製品が不安定な場所に設置されていませんか。設置場所が適切か確認してください。

② レコードの再生音にノイズが生じる

- カートリッジの針先にほこりが付いていませんか。付いている場合は、市販のブラシできれいにしてください。

③ レコードの再生音が速すぎる、または遅すぎる

- 本製品の回転数の設定が間違っていないですか。回転数セクターで、再生するレコードの種類に合った正しい回転数を選択してください。

④ 再生速度が遅くなる、または回転ムラがある

- ベルトが伸びていませんか。ベルトを新品に交換してください。

⑤ 再生中にブーンというノイズが入る

- アース線が正しく接続されていますか。アース線を確認してください。
- ノイズが続く場合は、アース線を取り外してください。ノイズを減らすことができます場合があります。
- ヘッドシェルがトーンアームにしっかりと固定されていますか。ロックナットを確認してください。

⑥ ペアリングできない

- Bluetooth機器の通信方式がVer.2.1+EDR以上であることをご確認ください。
- 本製品とBluetooth機器の距離を1m以内に近づけてください。

⑦ Bluetooth接続時、音が出ない／音が小さい

- 本製品とBluetooth機器の電源を入れてください。
- 本製品とBluetooth機器の音量を大きくしてください。
- 本製品とBluetooth機器の間に人、金属、壁などの障害物を無くし、距離を近づけてください。

⑧ 音が割れる／ノイズが出る／音が途切れる

- 本製品とBluetooth機器の音量を小さくしてください。

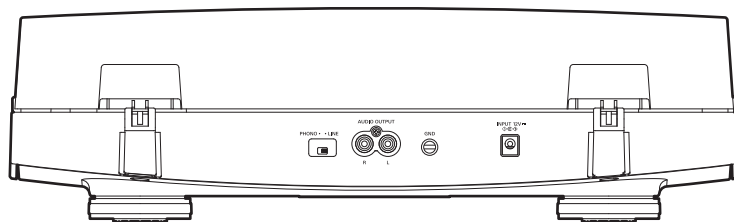
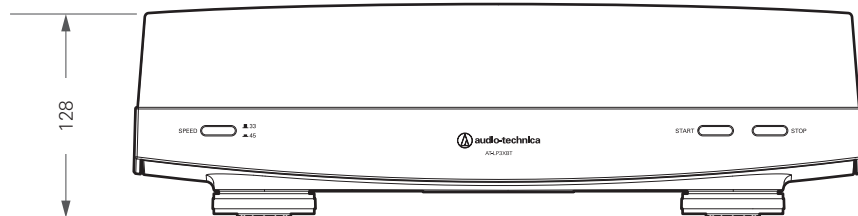
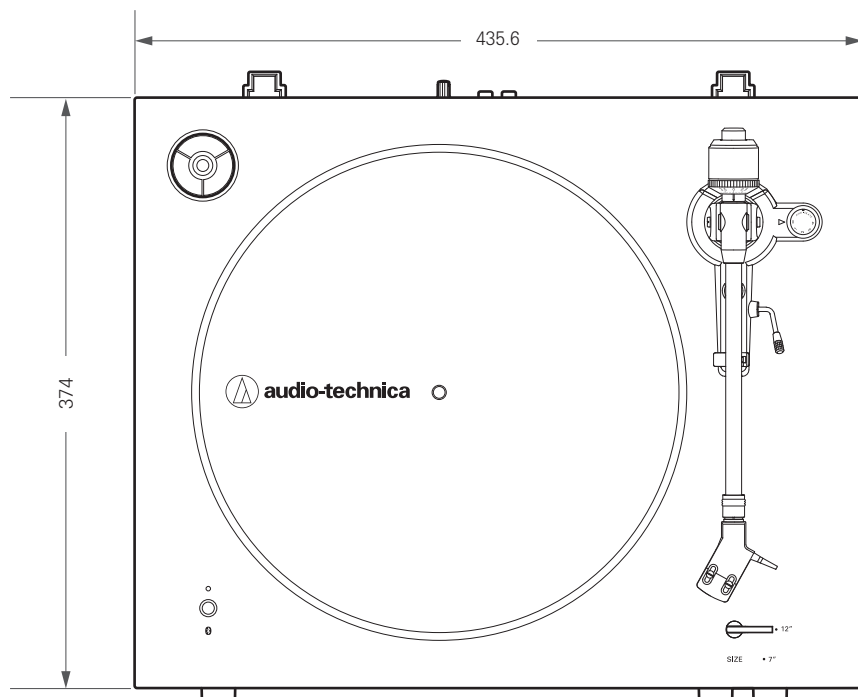
故障かな？と思ったら

- 本製品から電子レンジ、無線LANなど電波を発する機器を離してください。
- 本製品からテレビ、ラジオやチューナー内蔵機器を離してください。これらの機器に影響を与える場合があります。
- 本製品とBluetooth機器の間に人、金属、壁などの障害物を無くし、距離を近づけてください。



- Bluetooth機器の操作に関しては、機器により操作が異なるため、お持ちのBluetooth機器の取扱説明書をお読みください。

外形寸法図



(単位:mm)

テクニカルデータ

通信仕様

通信方式	Bluetooth標準規格Ver. 5.2準拠
RF出力	2.5mW EIRP
最大通信距離	見通しの良い状態で10m以内
使用周波数帯域	2.4GHz帯（2.402GHz～2.480GHz）
変調方式	GFSK、Pi/4DQPSK、8DPSK
対応Bluetoothプロファイル	A2DP
対応コーデック	Qualcomm® aptX™ Adaptive audio、Qualcomm® aptX™ audio、SBC

ターンテーブル本体の仕様

型式	ベルトドライブフルオートターンテーブル
駆動モーター	直流モーター
駆動方式	ベルトドライブ方式
回転数	33-1/3または45回転/分
ターンテーブルプлатター	アルミダイキャスト製
ワウフラッター	<0.2% WRM（33回転時）
SN比	>60dB
出力レベル	PHONO：標準値4.0mV（1kHz、5cm/秒） LINE：標準値252mV（1kHz、5cm/秒）
PHONOプリアンプゲイン	標準値36dB、イコライザー特性RIAA

トーンアームの仕様

種別	スタティックバランス式ストレート型トーンアーム
有効長	221.5mm
オーバーハング	19mm
最大トラッキングエラー角	3.0°未満
針圧調整範囲	1～4g
使用可能なカートリッジ質量範囲 （ヘッドシェルを含む）	14.5～20g

カートリッジとヘッドシェルの仕様

カートリッジ型式	AT-VM95C
カートリッジ種別	VM型（デュアルマグネット）ステレオカートリッジ
推奨負荷インピーダンス	47k Ω
出力電圧	4.0mV（1kHz、5cm/秒）
針先形状	0.6mil接合丸針
カンチレバー	アルミニウムパイプ
針圧の範囲	1.8～2.2g（標準値2.0g）
カートリッジ質量	6.1g
ヘッドシェル型式	AT-HS3 BK
ヘッドシェル質量	11.1g（リード線含む） 10.3g（リード線除く）
ヘッドシェルオーバーハング調整範囲	±8mm

一般仕様

電源条件	100～240V、50Hz/60Hz、0.6A Max.
消費電力	2W
ACアダプター	12V、0.5A
外形寸法	435.6mm×374mm×128mm（W×D×H）
質量	5.0kg
付属品	ダストカバー、フェルトマット、プラッター（ドライブベルト付き）、ダストカバーヒンジ、カウンターウェイト、VM型ステレオカートリッジ（AT-VM95C）付きヘッドシェル（AT-HS3 BK）、EPアダプター、オーディオケーブル（約1.0m）、ACアダプター（約1.5m）
交換針	AT-VMN95C
交換ヘッドシェル	AT-HS3 BK
交換ベルト	AT-LP3XBT用ベルト

- 改良などのため予告なく変更することがあります。

商標について

- **Bluetooth®** ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。株式会社オーディオテクニカは使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。
- Qualcomm aptX and Qualcomm cVc are products of Qualcomm Technologies, Inc. and/or its subsidiaries. Qualcomm is a trademark of Qualcomm Incorporated, registered in the United States and other countries. aptX and cVc are trademarks of Qualcomm Technologies International, Ltd., registered in the United States and other countries.



Qualcomm®
aptX™



Qualcomm® aptX™
Adaptive

株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1
www.audio-technica.co.jp

Audio-Technica Corporation

2-46-1 Nishi-naruse, Machida, Tokyo 194-8666, Japan
www.audio-technica.com
©2022 Audio-Technica Corporation
Global Support Contact: www.at-globalsupport.com